

O P E N D I A L O G U E W O R K S H O P
W I T H J A A K K O S E I K K U L A
A N D T O M E R I K A R N K I L



| 特集 |

オープンダイアログの理論的主導者

ヤーコ・セイックラ教授と トム・アーンキル教授の 3日間ワークショップ

手に汗握る





2016年5月13－15日の3日間、東京・渋谷でオープンダイアログのワークショップが開かれた*。講師は、オープンダイアログの開発にかかわり、現在もその理論的主導者として活躍するヤーコ・セイックラ教授と、彼の長年の盟友であるトム・アーンキル教授の2人。どちらも初の来日であり、その講演内容には大きな期待が寄せられた。ワークショップ3日目には、2家族のオープンダイアログ・セッションが公開形式で行われた。本誌では、この記念すべきワークショップに参加した10人の方に、それぞれの立場から感想を寄せていただいた。どの場面に着目したのか、ある情景をどう解釈し、何を思ったのか——声のトーンはさまざまだが、この「ポリフォニー」を読む者を幸せにしてくれるのは確かである。

*主催＝オープンダイアログ・ネットワーク・ジャパン、
公益社団法人青少年健康センター、日本思春期学会
協力＝日本家族研究・家族療法学会

Jaakko Seikkula



ヤーコ・セイックラ
(Jaakko Seikkula)

ユヴァスキュラ大学心理学部教授。臨床心理士。1980年代からフィンランド西ラップランド地方のケロプダス病院で、オープンダイアログの開発にかかわり、現在はその実践ならびに理論的主導者として後進の指導に取り組むかわら、数多くの著作、論文を発表している。

Tom Erik Arnkil

トム・エリク・アーンキル
(Tom Erik Arnkil)

フィンランドの国立保健福祉研究所教授。ヘルシンキ大学社会政策学准教授。さまざまな支援の現場における多職種連携のあり方を研究する中で、未来／予測型ダイアログ (Anticipation Dialogue) を開発し、セイックラ教授とも共同研究を行ってきた。

from Finland